

各学校における活用に当たって

1 本事例集の特徴について

本事例集では、「課題発見・解決学習」を構想する段階で、生徒の実態を踏まえ、発問や事象提示などの教師の意図的な働きかけを事前に検討することと、実践した結果を検証・考察して、改善の視点を見いだすことを大切にしています。事前に想定したものはあくまでも計画であり、その通りに生徒が反応しなければならぬものではありません。だからこそ、予想外の生徒の反応も肯定的に受け止めたり、実践後の振り返りを丁寧に行ったりし、今後の授業改善につなげていくことが重要です。所属校の授業研究において、これらの事例を参考として、PDCAサイクルを意識した授業改善につなげてください。

2 事例のポイント

◆ 学習過程

各事例の「課題を見いだす」場面や「課題解決を行う」場面において、想定される教師と生徒のやりとりについて記述しています。また、指導のポイントに、その際の教師の発問の意図を明示しています。

《例：地理歴史・公民の事例（p.8 一部抜粋）》

学習過程（○教師の発問、●生徒の反応予測）	指導のポイント	評価規準〔観点〕 （評価方法）
<p>1 課題を見いだす。【本時1】</p> <p>○皆さんは日頃どんな地図を使っているか。</p> <p>●インターネットの地図。新しい地図。詳しい地図等。</p> <p>・グループ学習を行う。</p> <p>(1) ○3枚の地図を古い順に並べ替えるなどどのような順番になるか。その際の判断の理由を明確にして説明してみよう。</p> <p>●蝦夷地と樺太の描き方の差から、精密な地図③が新しいと判断する。3枚のうち、精密でない地図①と②の順番に迷う。</p>	<p>【発問の意図】地図は最新のものを使い、当然に手に入るという生徒の認識を引き出す。</p> <p>【発問の意図】古い順に地図を並べた判断の理由を、生徒の常識などの既有知識を活用し、具体的に説明させる。</p> <p>地図①『大日本沿海要疆全図』（1854）北方地域の詳細 ②『三国通覧図説』付図（1785） ③『日本境界略図』（1809）伊能忠敬の測量や北方探検による最初の官製地図（高橋景保）</p>	

◆ 実践結果

【課題の練り上げの状況】

実践における「課題の練り上げ」において、教師の発問など、意図的に行った働きかけやそれに対する生徒の反応を、事実ベースで記述しています。

【振り返りの成果】

実践における「振り返り」において、ワークシートの記述や発言など、生徒が行った振り返りを、事実ベースで記述しています。

◆ 事例活用の留意点

各事例は、生徒の実態や各学校が育成を目指す資質・能力等、様々な要因に応じて開発されています。言うまでもなく、これをそのまま実践すればうまくいくというものではありません。各事例を参考にしながら、それぞれの学校の目標や実態等を踏まえ、自分であればどう改善するかという視点で十分に検討し、活用してください。